

平成 31 年 4 月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

4 月の業種別景況の前月比 DI 値は 14 業種の内、好転が 4 業種、前年同等が 6 業種、悪化が 4 業種で、全体の景況感 DI 値は 3 月より好転している。

繊維工業、卸売業、サービス業等では、追加の発注や地元企業の好調により売上が増加した一方、一般機器、小売業、商店街等では、受注量の減少や季節商品の動きが悪く、売上が減少したとの報告があった。

山口県の中小企業は、コストアップから収益が悪化しており、慢性的な人手不足が続いている。

山口県の主要指標 DI 値（平成 31 年 4 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：10.3% 悪化：29.5% DI 値：▲19.2% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、増加：15.4% 減少：26.9% DI 値：▲11.5% ポイント

収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：11.5% 悪化：28.2% DI 値：▲16.7% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 31 年 4 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲28.6	25.0	▲33.3	▲100.0	▲50.0	▲11.1	0.0	▲24.2
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	その他	全非製造業	全体
20.0	▲22.2	▲100.0	0.0	▲22.2	0.0	0.0	▲15.6	▲19.2
								

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	依然として原材料の値上がりが続いている。10連休の内、4月後半は売上が好調に推移。改元特需として、「令和」の焼印、プリント、帯、包装の菓子が売れている。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	4月から、製品の価格を8%前後値上げした。	パン・菓子製造業 下関市
	4月の売上は28日時点で対前年同月比+2.5%とややプラスαで推移。10連休スタートの27日、28日は比較的天候にも恵まれ対前年比でプラス。29日は強風と雨の悪天候ながら利用者数は多い。10連休のピークは3～5日と予測しているが、初めての10連休で、客足の予測が手探り状態であったため準備等で多少混乱した。	水産食料品製造業 萩市
	全体的に物の動きが少ない感じがする。消費増税前の停滞感か、還元などシステムに売り手側の不公平感がある。ここにきて運送費の値上げで、非常に困っている。食品の値上げも続いており、消費に結びつくかは不透明。	水産食料品製造業 下関市
	4月は、地球温暖化による気候変動の影響のせいか、長雨が続き、野菜の生育への影響が懸念されるなど、気候変動によるリスクが高まることとなった。今後は二酸化炭素を排出しないような社会づくりが重要となると考えるので、バスなどの公共交通機関は、燃料電池の利用などを検討することも必要である。	精穀・製粉業
繊維工業	4月から、主要取引先の在庫調整により受注減となり、売上が減少。	下着類製造業
	前年同月比では、変化なし。	外衣・シャツ製造業 山口市
	5月連休前迄の納品が終わり、引き続き追加の発注があった。仕事量は確保できているものの、急ぎの仕事への対応に苦慮している。5月中旬からは秋物の開始。	外衣・シャツ製造業 萩市
	例年、この時期は仕事量が増大し、5月中旬まではこの状態となる。メーカーの備蓄時期の仕事量が心配される。	外衣・シャツ製造業 山陽小野田市
木材・木製品	木材業界は、暖かくなると少しずつ動きが出てくるが、今年は今一つである。	製材業・木製品製造業 岩国市
	4月は特に変化がなかった。	製材業・木製品製造業 山口市
	年度替わりの時期で、公共工事関連木材の動きは無かった。また、民間の住宅についても新築の動きは無く、改築によるものが少々あった。	製材業・木製品製造業 下関市

印刷	3月の需要期が終わり、受注状況は低調で、改元特需もみられない状況である。	印刷 下関市
	長期休暇前に駆け込み受注はあったものの、当社の得意分野である頁物の受注が少なく、工場の稼働率は低かった。	印刷 山口市
窯業・土石製品	4月の出荷量は、 (平成30年4月) 骨材 97%、路盤材137%、再生材 95% ↓ (平成31年4月) 骨材120%、路盤材 86%、再生材122% 山口市役所、新山口駅前開発、農業試験場跡地等々の公共工事の発注が今から少しずつあると予測しており、少しは動きがありそう。	砕石製造業
	出荷量は、前月比102%、前年同月比90%。平成30年度908千m ³ 、前年度比88%。2019年度の見通しは853千m ³ 、前年度比約94%の見通しとなっている。現時点でのセメント・骨材等の資材調達で特に問題は生じていない。生コンの販売価格は県内で上昇傾向である。	生コンクリート製造業
	新元号が「令和」となり、画数が少なく文字彫刻がしやすいので一安心であった。石材業界で改元に伴う影響はさほど無いが、お客さまの要望で「平成31年・令和元年」の両方の元号、また西暦2019年もお墓に彫ってほしいという要望があると予想されるが、このような年は減多にないので、できるだけ要望に応えていきたい。	石工品製造業
	4月の萩市内の観光客は、大型連休前で観光を控えている人が多いのか、昨年と比較し減少傾向で売上も減少している。ギフト・卸関係・百貨店の受注はダウン。浅草アンテナショップ「萩の風」の売上げは、先月に引き続き10%アップとなった。ちなみに「萩の風」2月の売上に対する外国人の割合は32.1%（内訳：アメリカが全体の37%中国が全体の36%、他はイギリス、インドネシア、韓国、フランスと続く）萩市内も外国人の割合が増えており、さらなる集客を目指して、SNS等による情報発信、クレジットカードやスマホ・QRコード決済の整備を進めていく必要がある。	陶磁器・同関連 製品製造業
一般機器	4月の景気は全般的に安定して推移している。国内では、自動車関連と県内大型構造物の設備関係はいずれも順調。国外では中国の受注が回復、また、ベトナム、マレーシアなど東南アジアの受注で9月頃までは順調である。採用については、組合員の一部で充足しており、定着率を高めるために教育・訓練に力を入れている。	一般機械器具製造業 防府市

	<p>食肉加工、惣菜、自動車関係等実習生を入れている全ての職種で業績は好調で、残業も多く、36協定等法律の遵守を指導している。但し、機械検査の企業に若干の業務量の減少傾向があり、残業が全くない状況。なお、働き方改革に伴う法制度の改正の周知に努めている。介護職についてはインドネシアにてN4取得の研修中。制度改正に伴う3号移行者の入国も順調で、即戦力として活躍している。受け入れ人数拡大枠の利用についても順調で、有効求人倍率の高止まりに伴う人手不足感が強まり、今後とも技能実習生増員の傾向にある。特定技能については、企業の関心は高まっており相談が増えてきているが、具体的な手続きに不明な点が多く混乱している。登録支援機関の申請準備も進めている。景気動向に若干の陰りもあり予断を許さない状況と判断している。</p>	一般機械器具製造業 宇部市
	<p>4月前半は年度末からの引き続いた案件で多忙な時もあったが、後半は年度初めであることと大型連休もあり、顧客の動きも少なかったため、比較的穏やかであった。</p>	一般機械器具製造業 下松市
	<p>人手不足が続いているが、全体では前年と変わっていない。</p>	一般機械器具製造業 宇部市
	<p>前年同月比で見ると、今期は油回収装置の大口受注が無い分、資金繰りが苦しい。</p>	一般機械器具製造業 下関市
輸送機器	<p>産業プラント部門の作業量は減少しているが、今時点では車両部門の作業量でカバーできている。しかし長期にわたった英国案件がこの春で終了するため今後の動向に注意が必要。半導体部門は米国案件に対応しており多忙な状況。</p>	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	<p>海苔の入札が終了し、荷動きが悪く、在庫が8.5%減少した。</p>	乾物卸売業
	<p>魚の入荷が少なく、売れ行きも悪い。天然の「ふく」は史上空前の安値となっている。</p>	生鮮・魚介卸売業
	<p>3月末から燃料価格が上昇し、収益に影響あり。</p>	各種商品卸売業
小売業	<p>だんだんと暖かくなる今時期は、お客様が購入する化粧品について、きちんとカウンセリングを実施し販売しなくてはならない。シーモール下関は改装して一年と少し経ったが、退店もチラホラ出ている。下関駅のリピエも閉店したままで入店もない様子である。他業種の人も言うが、やはり景気はあまり良くないと思う。</p>	化粧品小売業
	<p>例年この時期にはエアコンが売れ始めるが、今年は動きが悪かった。山口市のリフォーム関連の補助金は、消費税の関係で8月からの受付となっている。</p>	機械器具小売業

	空前絶後の大型連休。近年の市況や消費構造は働き方改革の浸透もあり、大小を問わず連休は前半に物やサービスが売れて、後半は休養安息に過ごす消費者の傾向が顕著になっている。GWもやはり同様の動向が見られた。岩国地域に限れば、5月5日に米軍岩国基地フレンドシップデーが開催され、今年も十万人規模の来街者が見込まれる。これらの来街者による経済波及効果は非常に少なく、街ぐるみで商業活動を展開するための音頭とりを行政が行い、商工会議所や商店街振興組合らが実際に取り組まなければならないが、現状は、店舗の8割近くが休みとなり、飲食店と宿泊業だけが混乱を来すほどの活況となる。この歪みを是正し、観光商業の発達を推進するためには、まず街づくり会社など行政サイドの動きが重要。	各種商品小売業 岩国市
	新駅ビルの開業以降で初の大型連休であったが、例年通り、商店街は閑散としている。商店街付近の駐車場利用台数の減少傾向は続いている。	各種商品小売業 徳山市
	3月同様に、商店街の来客数が激減したままである。天候に関係ないようで原因は不明であるが、来月以降に期待したい。	各種商品小売業 下関市
	3月の衣料品店の組合員の退店に続き、今度は衣料の核店舗である「まるみ」より、売上不振を理由に今年7月で退店との申入れが急遽あった。4月17日より閉店セールが実施され、売上、客数は前年を上回っているが、今後の組合の運営自体が危ぶまれる厳しい状態に陥っている。	各種商品小売業 長門市
商店街	スーパーの撤退から通行量が激減している。明るい兆候はなく、先行きが極めて心配である。	宇部市
	多少暖かくなり人通りも増えたように感じるが、商店街の店舗の話では来客が少なく、まだ購買力には至っていないと言う。国の施策のキャッシュレスも今一つ盛り上がりに欠けている。	萩市
サービス業	卒業式シーズンが終わり、直ぐに入学式シーズンとなった。地元企業の好調の恩恵で、客足も止まらず、大型連休の月末まで大盛況であった。しかし、人手不足のため、客を受け入れることができず、例年通りの売上になっている。	美容業
	景気動向によれば、緩やかな回復傾向にあると報道されているが、組合員に聞くと、依然として景気の悪化が続いている。	理容業
	山口県における平成31年3月末の新車販売台数は、対前年同月比で7.5パーセントのマイナス、また、中国5県においても6.6パーセントのマイナスという結果になり、新車販売がかなり冷え込んでいる状況が伺える。売れなかった要因は明らかになっていないが、	自動車整備業

	若者の車離れや改元が一因ともいわれている。新車販売の不振が続くと将来の車検整備台数等に大きく影響することから、整備業界に取っては先行きが不安である。	
	競合が増えた。	スポーツ・健康教授業
	4月は衣替えのシーズンに当たりクリーニング業界としては書き入れ時の月にあたる。しかし今年は気温の低い日が続き消費者の衣替えが進まないのか、前年同月比で売上は伸び悩んだ。昨年は気温が高く業界内のどの会社も異常に売上を伸ばしたが、今年は例年通りといえる。ゴールデンウィークの10連休が、消費者の消費疲れを起こさないか懸念している。またクリーニング店としては、お預かりする商品やその繊維、消費者とのコミュニケーションの中から、家庭でも洗える衣類の増加やクリーニング代に対する節約志向が浸透しつつあることが実感され、今後の消費者のクリーニング利用額の減少へとつながることを心配している。	普通洗濯業
	5月からの販売価格の値上げを通知したところ、施設利用券(入浴券)の買い溜めが急増し、売上高の20%増加となった。しかし来月の売上高への影響が懸念される。	旅館業 長門市
	全体的に旅行客が増えて増収になっているが、慢性的な人手不足状態である。	旅館業 下関市
	組合員、業界に限らず、人材不足は深刻な問題と感じる。大型連休につき、お客様の動向が読みにくかった。	飲食業
建設業	中電への工事申請103件(当支部分89件)、前年同月143件(同113件)。太陽光発電への申請18件(前年20件)、オール電化申請42件(前年85件)。LED街路灯への切り替え・新規申請30件(前年17件)であった。	電気工事業
	工事量の減少した状態が続いており、回復は夏からか。今年度の高校新卒者の採用活動が5月から始まる。直接高校に出向いて求人活動をする事業所は数社あるが、高校の教員との地区単位での懇談会に参加する事業所は殆どない。	左官業
	4月は例年通り入札が無い場合、前年同等の状況である。入札は例年よりも早く、5月早々より開始されている。	管工事業
	4月以降の新築着工件数は少し上向いてきているように思えるが、依然として屋根材に瓦を採用する物件が少なくなっている。建物の総価格を抑えるため屋根形状は簡単なものに移行しているため、一軒当たりの瓦工事金額も減少している。フランチャイズ傘下のビル	屋根工事業

	<p>ダーの増加により、地場工務店の物件が減少し、地場工務店の仕事が少なくなってきた。営業力では太刀打ちできないので致し方ないが、結果として地場工務店の廃業に繋がっている。</p>	
	<p>従前に工事量が減少していたので作業員が減少しており、災害工事を受注できない模様。長期の景気浮揚が無い限り、新規雇用は困難な模様。人材不足なのか、雇用を必要としていないのかというと、雇用の必要を感じていないように思う。</p>	<p>土木工事業 柳井市</p>
	<p>手持ちの仕事をこなしているので、新規の受注はしていない。</p>	<p>土木工事業 周南市</p>
	<p>4月の受注高は、対前年同月比95.2%。</p>	<p>土木工事業 萩市</p>
運輸業	<p>輸送関係は、新年度を迎えるもドライバー不足もあって輸送量が減少傾向で、業界の売上高もやや減少している。特に輸出品の減少が目立った。国内輸送量はやや上向きではあったものの、前年度比約1.8%の減少である。中小運送業者にとっては厳しい4月であった。燃料費は2円の値上げ。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下松市</p>
	<p>4月の輸送売上高は、前年比約13%程度増加し、順調に推移している。今期も順調に推移するとの見通し。燃料費が依然として上昇基調にあり、不安材料である。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 防府市</p>
	<p>運送・倉庫業等、物流業全体として前年より物量が増加し、状況が好転している感がある。問題となっているのはやはり人員不足である。製造業を営んでいる弊社グループ企業などは、以前より外国人留学生を雇用しているが、現在増員の予定もある。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比▲0.1%（平成31年3月1日～平成31年4月20日分）でした。3月1日～31日分は▲2.1%、4月1日～20日分は+3.4%。3月分は、31日が日曜日だったこともあり、後半で減少したが、4月も大連休となることから、後半の取扱量の減少が危惧される。当組合の取扱いは、光市、下松市、周南市、防府市の地域。3月分については、周南▲2.2%、下松▲3.2%、光+6.5%、防府市地区が+0.1%で、組合員の全域では▲1.3%、地区外（員外）▲14.4%、合計▲2.1%（▲496千円）となった。得意先別の増減は、締切り期間による増減と思えるものも多く、長期間で平滑化すると、業種や地域による傾向はあまり無いように思える。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動するが、CPが上がり（前月495.0\$/トンが今月527.5\$/トン、前年467.5\$/トン）、輸送用バンカーC重油も上がり（前月420.0\$/トンが今月429.0\$/トン、前年366.0\$/トン）、為替は円安（前月</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>

	<p>111.38 円／\$ が 112.24 円／\$)。燃料単価は前月より + 2.8% 上がり、前年 4 月分に比べると + 9.0% と大幅に上昇しており、各社の経営を苦しめている模様である。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足している。労働条件の改善のため、タクシー運賃の改訂を希望する事業者が、運輸局に申請していたが、申請事業者数が一定割合を越えたので、運賃改定が行なわれることになった。但し、新運賃の体系（基本料や爾後運賃）については、色々な考えがあるようで、同一地域同一運賃にならないかも知れない。</p>	
	<p>4 月は、対前年比、ほぼ同程度の取扱高となった。</p>	<p>港湾運送業</p>
<p>その他 非製造業</p>	<p>技能実習生の支援のため組合としてしっかりと活動していけるように、人員を増やした。</p>	<p>介護事業</p>